

柿沼敏江 KAKINUMA Toshie

カリフォルニア大学サンディエゴ校博士課程修了、PhD。専門はアメリカ実験音楽、20-21世紀音楽。著書『アメリカ実験音楽は民族音楽だった』（フィルムアート）、『〈無調〉の誕生』（音楽之友社、第30回吉田秀和賞受賞）。共著『音と耳から考える——歴史・身体・テクノロジー』（アルテス）。訳書ジョン・ケージ『サイレンス』（水声社）、アレックス・ロス『20世紀を語る音楽』（みすず書房）など。現在、京都市立芸術大学名誉教授。京都市立芸術大学芸術資源研究センターのプロジェクト「フルクサスのオーラル・ヒストリー」では、一柳慧、塩見允枝子らにインタビューを行った。これらは日英二か国語で公開されている。
<https://www.kcua.ac.jp/arc/ar-category/02-fluxus/s>